

《横浜市感染症臨時情報》風しん第16報

風しん患者報告数が昨年の4倍を超えました。

- ◇ **女性の報告数が漸増**しています。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんにかかると、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「**先天性風しん症候群**」の子どもが生まれる可能性があります。
- ◇ 流行の中心である、20～40歳代男性の予防接種が流行阻止に重要です。特に、**妊婦さんと接する家族や周囲の方(友人や職場の同僚等)**は、予防接種を受けましょう。
- ◇ 「**妊娠を予定・希望している女性**」、「**妊娠している女性の夫**」を対象に予防接種の助成[※]を実施しています。

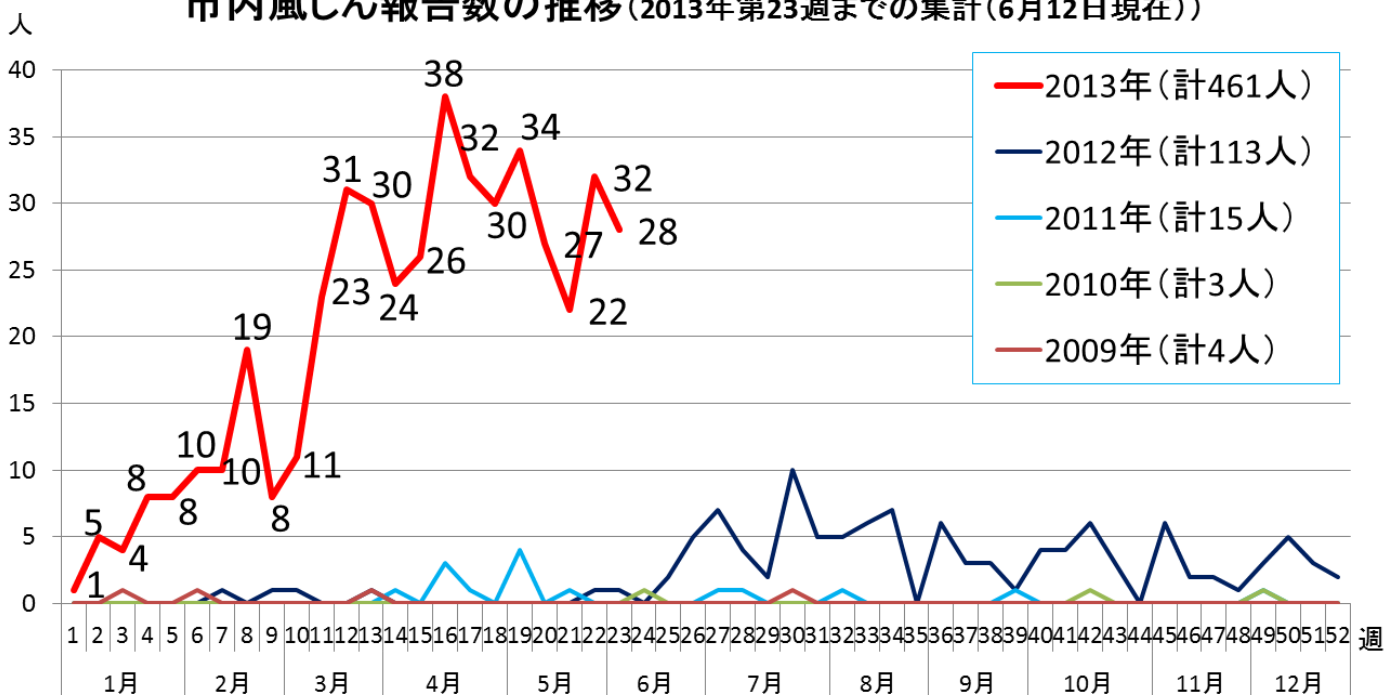
※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

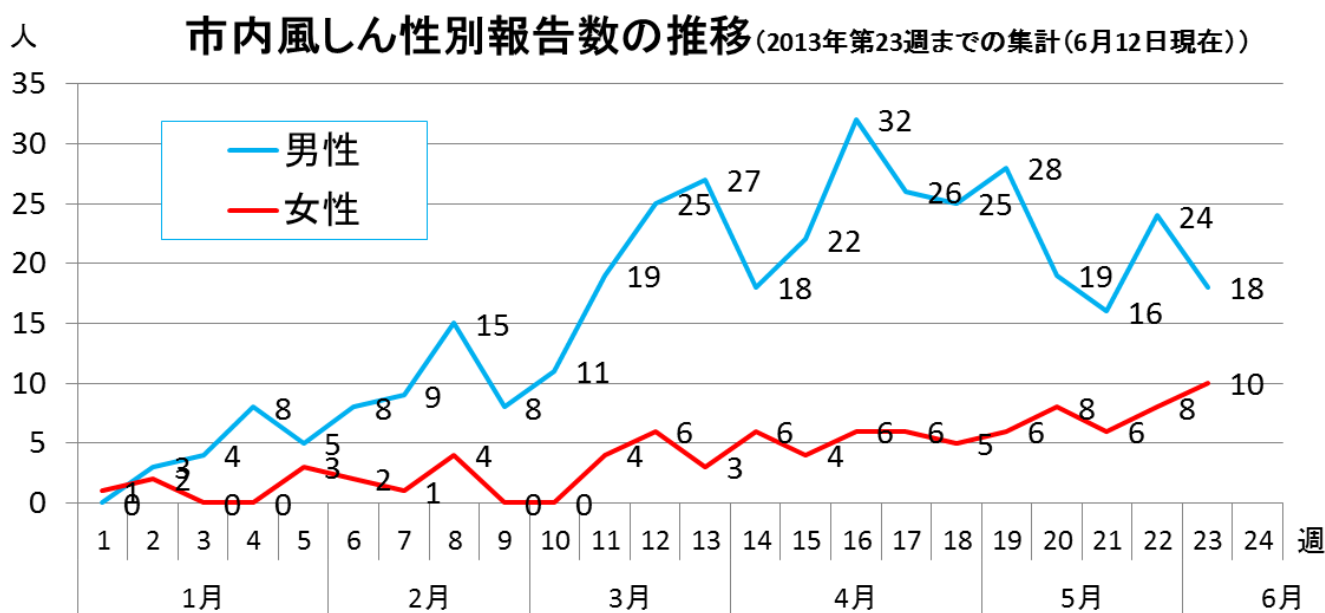
風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

- 1 市内流行状況:今年の初めから第23週(6/3～9)までの患者報告数累計が461人となり、昨年の報告数(113人)の4倍を超えました。依然として、毎週の報告数は20人を上回っています。

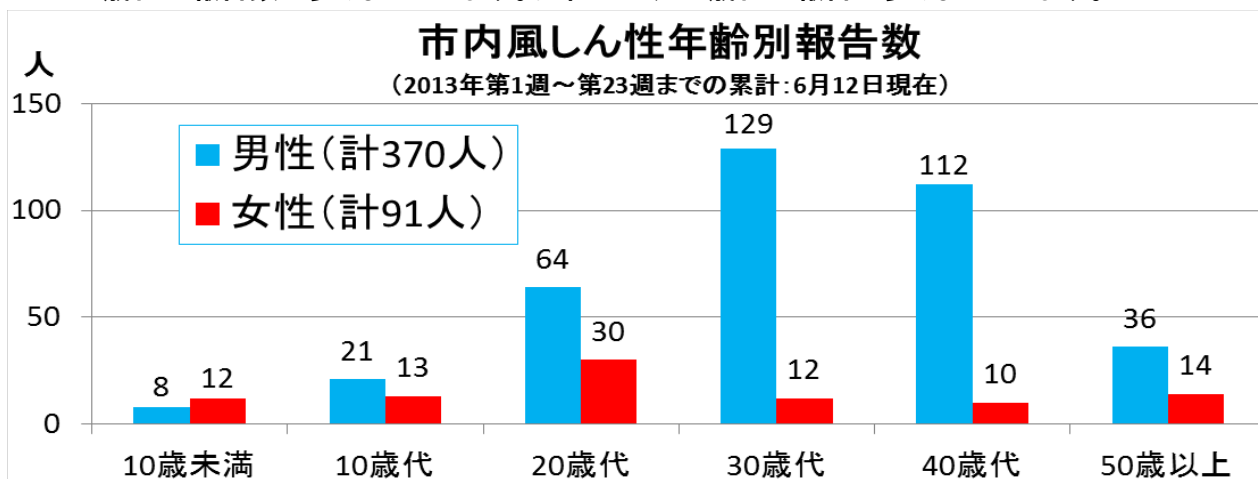
市内風しん報告数の推移(2013年第23週までの集計(6月12日現在))



2 性別届出患者数の推移:依然として男性の報告数が多くを占めていますが、**女性の報告数が漸増傾向です。**



3 届出患者の性年齢別状況:患者のほとんどが男性(80.3%:2013年の患者461人のうち370人が男性)で、特に20~40歳代の報告数が多くなっています。女性では、20歳代の報告が多くなっています。



4 予防接種の接種状況:予防接種歴が確認されたのは37人のみで、他はすべて予防接種歴が無いか、不明でした。**特に、男性では95.9%(男性370人中355人)で予防接種歴が確認されませんでした。**

5 先天性風しん症候群の発生について:市内では昨年、今年とも報告はありません。全国では、第23週に東京都で新たに1件報告され、今年に入ってから報告数は計6件(東京都2件、愛知県2件、大阪府1件、神奈川県(相模原市)1件)となりました。

任意予防接種の助成

横浜市では、平成25年4月22日から9月30日まで、19歳以上の横浜市民で、「**妊娠を予定・希望している女性** (注:妊娠中は接種できません、接種後2か月は避妊をしましょう)」、「**妊娠している女性の夫(婚姻関係は問いません)**」を対象に麻しん風しん混合(MR)ワクチン1回分の助成(自己負担額3000円で接種できます)を行っています。定期予防接種(MR)協力医療機関で接種可能です。医療機関等、詳しくは[横浜市ホームページ](#)をご参照ください。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9815